ゆめごよみ風だより98号

2022年3 月 17 日　発行

特定非営利活動法人　ゆめ風基金事務局

（〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-13-43-106）TEL06-6324-7702

INDEX（いんでっくす；もくじ）

代表が変わります。これからもよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

コロナになって

東日本大震災から11年

リレーエッセイ　災害と障害者　第 71 回

福祉避難所の事業継続計画

応援団からこんにちは

カンパをいただいた団体/事務局の動き

会計報告

各地からの風だより

代表が替わります。これからもよろしくお願いいたします。ありがとうございました！

代表理事　牧口　いちじ

思えば丸27 年前の 1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、グラグラガタガタとかつて体験したことのない激しい揺れにビックリ。前日から老いた母のアパートに泊まる日で、締め切り間際の原稿を徹夜で書き上げ、ワープロ誤植を見直し、コタツに全身を突っ込んで少し寝ようとした矢先、あわててテレビを点けると、大阪、神戸の震度だけがなくて、てっきりボ

クの真下が震源地と思ったのでした。

ほぼ 30 分して神戸と淡路島北端の接する辺りに震度6。自宅のツレに電話、「タンスが倒れてきたが身は安全」との声にホッ、「帰りは夕方になるよ」と告げ、少し落ち着いたとたん、テレビには高速道路が一〇〇m ほど倒れている画面、やっと地震の大きさを認識した時でした。午後からのM大学での予定が気になりダイヤルを回すと既に電話は通じず、テレビから「公衆電話がかかりやすそう」と。松葉づえで団地内の電話ボックスへ向かいました。

外に出てみると、ブロック塀が砕けていましたが、大きな変化はなく、行き来する車の数もやや少なめ、テレビ映像の厳しさとは少し違っていました。その頃、神戸・長田区界隈は火の海への始まりだったのです。公衆電話で大学の休校を知って落ち着きを取り戻し、やっと神戸・西宮・伊丹・尼崎そして大阪の障害者仲間の状況に頭が巡ったしだいです。

市民運動仲間はいち早く「救援本部」を立ち上げ大阪市立早川福祉会館を被災障害者の避難所として確保し、神戸・西宮では「被災地障害者センター」をたちあげ情報の収集と支援活動を始めていました。誰もが即座に被災地の役に立ちたいと思った時です。ただ仲間の速さに少し出遅れたのがボクと河野秀忠でした。二人も何かしたい、そこで考えたのが救援活動を邪魔しない「お金を集めよう」でした。お金なら何かの役に立つ！

数日後、河野が神戸に辿り着くなり「カネや金、一〇億円集めよや」と電話をくれて、「5億円でどうや」と値切るボク。彼のオーバー気味をセーブして、近畿周辺での金集めイメージでした。が、河野は全国が視野だったそう、スケールで負けました。だけど金集めは

苦手な二人です。恥も外聞もなく、いままでお世話になった著名人に「助けてェ～」のラブコール。それが認定ＮＰＯ法人ゆめ風基金の始まりです。

正式には、来る三月はつかの第二一回定時総会で発表すべきことなのでしょうが、私が 27年間も務めましたゆめ風基金代表を辞するご報告をいたします。私どもを支えてくださる呼びかけ人のみなさま、会員のみなさま、ネットのみなさま、応援団のみなさま、静かに声援してくださるみなさま、ひとつの区切りですが、ほんとうにありがとうございました。心をこめてお礼申し上げます。

よわい 80 を超えたあたりから、多くの場面で必要な言葉が出てこなくなり（むろん、それまで適切な発言をしてきたかと問われれば、あやしい限りですが）、適切な言葉が思い浮かばず判断が鈍ったりで、一日も早く代表の任を辞さねばと感じるように。とくにゆめ風の活動がマスコミなどで報道される折、必ずカッコの中に代表名とねんれいが記され、そのたびに我に返りゾォーとするしだい。焦りだした矢先のコロナ禍騒動で、遅れてしまいましたが、新しい代表として理事のとだ じろーさんにバトンタッチすることができそうです。

戸田さんは岐阜の人で八年ほど前の総会で理事になってもらいました。彼と知り合ったのは一九七〇年代半ばで、お互い松葉づえで少年期を過ごし、いまは車いすの身。少年の頃、狭くてサードが取れない三角ベースという野球に興じていた思い出（走れないので仲間にルールを変えてもらって）が共通していて、とても親しくしている人です。現在七一歳、ボクより一回り以上若くて、ゆめ風を盛り立ててくれること請け合いです。

ゆめ風は続きます。私も理事として残ります。理念は①迅速に②不平等を恐れず③役立つ金額を・・・を守りぬきます。また寄せていただく支援金は決してゆめ風基金のもの

ではなく、一時的にお預かりしている大切な大切なお金である、との認識を常にきもに銘じて活動していきます。どうか、これからも認定NPO 法人ゆめ風基金をよろしくお願いいたします。

コロナになって

筋ジストロフィーA

私がコロナになったのは、2021 年 4 月後半。第 4 波のアルファ株が猛威を振るい、大阪でも連日1000 人以上の感染者が報告されていた頃です。

きっかけは、通所している生活介護事業所とその建物内でのクラスター。38 度以上の発熱陽性者が出て、建物内関係者のＰＣＲ検査で9名の感染が発覚。うち6名は私も含めて無症状。

PCR 検査は、陰性確認のためとたかをくくっていたら、まさかの陽性。聞いた瞬間はあたままっしろ。次に浮かんだのは、5%の死。呼吸障害で肺炎になったらヤバい。その次に療養生活のこと。入院か、自宅療養か？

入院はいや。入院経験は数度あるけど、沈むベッドでそれこそ１ミリも身動きがとれない、大便を排泄できない、そして何より医療者側のペースで私のことを決められてしまう恐怖、などなど。

自分のペースを守れ、リフトで安全安心に生活できる自宅が一番。しかしそのためには 24時間のヘルパー確保が必要。

今回は、無症状であること、病院も療養用ホテルも満室であることから、保健所指示で自宅療養に決定。

旧来の介護者と事業所派遣の組み合わせでのヘルパー体制ですが、既に何人かは濃厚接触者で自宅待機。結局、いちから新たに 24時間介護体制を組んでいく

しかない。でも私の力量を超えた課題。こういう窮地の中、大きな助けの手。主力の派遣事業所が3人専従で24時間介護を組んでくれたのです。

1人が10時から翌日10時の24時間介護に入り、介護明けはホテルに泊まる。介護中ヘルパーは、防護服に医療用マスク着用。私は奥の部屋で過ごし、中の部屋とはもともとあるアコーディオンカーテンを閉め、中の部屋から台所、玄関へは扇風機で換気。食事は、知人が私の好物を昼前2回分差し入れてくれました。幸い無症状で食欲はあり、美味しく頂きました。

そして無症状のまま、10日間の自宅療養期間が過ぎ、保健所からＰＣＲ検査なしに外出可の許可。ただ、介護に入って頂いたヘルパーは、最後の介護日から14日間は濃厚接触者として、引き続きホテル滞在を余儀なくされました。このことは本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

最後に、改めて、ご支援頂いた方々に感謝いたします。

今回は実際にコロナに感染された当事者のかたに手記を書いて頂きました。匿名で、とのご希望に沿い原文のまま掲載します。

東日本大震災から11年

“思う”と“動く”のあいだで

元被災地障がい者センターみやぎ代表　おいかわ　とも

ゆめごよみ風だよりを通じてまた皆様のお目にかかれること、また東北に心を寄せ続けていただいていることに心より感謝いたします。

原稿依頼をいただき、今　私が書く意味を考えたと同時に「今さら私が…」という気持ちもありましたが、今、思うことを書いてみようと思っています。

東日本大震災当時、仙台の自立生活センター「CIL たすけっと」の代表を務めておりました。発災直後、避難所にいられず　事務所に戻りました。いち早く支援拠点として物資の受け渡しを始めたのは、“ゆめ風ネット”だったことも大きかったと思います。八幡さんに入っていただき「被災地障がい者センターみやぎ(センターみやぎ)」を発足しました。「元に戻すのではなく、よりよく」と。

センターみやぎ 3年間の活動は全国の支援に支えられ、①人材、物資、金銭支援　②拠点整備　③要望・提言　④「逃げ遅れる人々」上映キャラバン　⑤ともに生きる石巻連続講座等々多岐にわたります。活動を全国各地で報告する機会もたくさんいただき、各地の方々と交流しました。各地のダイナミックでエネルギッシュなパワーに接したことは私の大きな財産となっています。

一方で私自身のこととしては、日々の動きに追いつくことがやっと、いや、追いつけていなかったように思います。代表ではありましたが、様々な情報・状況をそしゃくしきれないまま走り回っていました。各地で見聞きしたことを地元に還元することを期待されていたと思いますし、私自身もそのように“思って”いましたが、そうしたことをどれだけできたのかというと不十分だった面もあるように思います。

当時から指摘されていた課題は、センターみやぎの拠点だった CIL たすけっとの解散ということにつながってしまい、なんともじくじたる思いがあります。が、センターみやぎの活動から誕生したＮＰＯ法人が現在も現地で活動しており、時に交流し共に活動しています。当時取り組んだ避難所などの課題も全国的にも積み残ったままです。こうした課題に関心を寄せ続けていきたいと思います。

ありがとうございました。

震災から11年

CILもりおか　かわばた　まさこ

2011 年 3 月 11 日午後2 時 46 分に東日本大震災が発生し、多くの方が犠牲になりました。

震災後まもなく、「全国自立生活センター協議会」「DPI日本会議」などの障害者当事者団体と、「ゆめ風基金」の協議により、「東北関東大震災障害者救援本部」が発足しました。その現地活動の拠点として、被災地障害者支援センターふくしま、被災地障がい者センターみやぎ、そして 4 月 12 日、被災地障がい者センターいわてが立ち上がりました。福島、宮城とも自立生活センターの当事者がキーマンとなっているため、岩手の場合もＣＩＬもりおかにゆめ風基金から呼びかけがありセンターを立ち上げました。

被災地障がい者センターいわては、故、いまがわ　さちこさんが代表を務めました。全国各地から集まったボランティアと共にCILもりおかの事務所とは少し離れた場所に事務所を借りて活動を始めました。被災地をまわって、困っている障害者を探すことから活動ははじまりました。

被災地支援に取り組んで来た皆の活動の集大成として、TRY（トライ）をやろうと決意したのは、2012年3月末でした。被災地障がい者センターいわて、みやこ、かまいしが中心となり、みちのくトライ実行委員会が結成されました。

TRY とは、車椅子で野宿しながらバリアフリー化を求め旅するイベントです。そのトライを被災地岩手沿岸部で実現したのが『みちのくトライ』です。

『みちのくトライ』の目的は、失われた人たちの命に対する追悼、そして残された人たちの未来を切り開くため、建物のバリアフリーチェックをして改善を求め、誰もが安心して暮らせる新たな街づくりの要望です。

震災の被害が大きかった宮古市たろーから陸前高田市までのおよそ150kmの道のりを、障害のある人もない人も、汗をかき、寝食を共にしながら歩きました。

沿岸部被災地は特に障がい者にとっては住みやすい環境とはいえません。外に出たくても出られる環境であるとはとてもいえない状況です。

この時期の活動がきっかけで、のちに沿岸の施設から地域へ自立生活に移行できた方、当事者活動を軌道に乗せた方、自立生活を目指す方も現れました。この千にひとつのきっかけを大切に大切に、希望する自立生活に移行できるように今後も応援を続けます。

まもなく震災から11年になろうとしています。亡くなられた方、関連で犠牲になられた方。そして、震災直後から、被災地支援に駆けつけてくれた全国の皆さんに想いを馳せています。

リレーエッセイ「災害と障害者」第七十一回

障害者が地域の中で生きるとは　後編

くまもと障害者労働センター　**くらた　てつや**

プロフィール：1966年11月22日生まれ。一ヶ月の早産で母体から逆子で生まれ、へその緒が首に巻き付き、呼吸が出来ず脳障害をおこし手足の一部に麻庫を残す。手が使えない為、生活の全般を足で行う。1972年より県立支援学校で生活を始める(幼稚部・小学部・高等部計13年間)1985年4月高校卒業後、「『くまもと「障害者」労働センター』に入る。1990 年 6 月 二代目代表に

就任。2004 年 6 月 自動車運転免許取得。日本初、足でハンドル操作式運転。現在は熊本市長嶺西でホームヘルパー制度を利用しながら暮らしている。

子ども達に伝えたいこと

両手にまひがある私は、足で全てをこなします。特別なことだと思われそうですが、スマホの操作やひげそりなど皆さんが手でやることを足でやっているだけなのです。

人権学習の講演で小学校を訪れると、子どもたちはざわつきます。「変な人」「ヤバクない？」…。発語にもまひがある私が「こんにちは」とあいさつすると、びっくりした表情を見せ、さらに笑顔で子どもたちの中に入っていくと後ずさりをします。「僕を見てどう思う？」。子どもたちは「手が曲がってる」「怖い」と大人なら言わない感想をぶつけてきます。「そうか残念だなぁ　かっこいいって言ってくれなくて」。表情が緩みますが、私の日常を動画で紹介するとまたびっくり。食事や買い物、車の運転も足でやってしまう姿を見ているうちに、笑顔の輪が少しずつ広がります。

運転免許を取得する前、私も「どうせ手が不自由だから無理だ」と思っていました。しかし、技術の進歩や仲間の励ましが背中を押してくれ、チャレンジできました。皆さんは自分の限界を決め付けていませんか？

子どもたちにはこう伝えます。「せっかくなら挑戦してみよう」

想像できる人に

私は公共交通を使って、よく一人旅に出掛けます。　しかし、空港での応対は、なかなかスムーズにはいきません。一人旅だと伝えると、「介助者の方はいないのですか？」と問い返されます。搭乗した実績があるのに「シートベルトを自分で着脱できないと乗れま

せん」と言われ、事実上の〝搭乗拒否〟に遭ったこともありました。

係の人は型通りに応じているのですが、そのマニュアルを作る際、私のように手が使えない障害がある乗客のことを想像したのだろうか、と疑問を抱きます。想像できていたら当然、障害のある人の意見を参考にしてマニュアルを作るでしょうし、そうすれば搭乗拒否は起きなかったのではないかと思うのです。

自分と違うものがある人との出会いが、想像力を高めます。いろいろな人と一緒に生きてきた人は、自然と相手を思いやることができるでしょう。だから私たちは、障害があっても閉ざされて暮らすのではなく、地域の中で生活したいと願ってきたのです。子どもたちにはぜひ「想像できる人」になってほしいです。

命はみんな平等

相模原市の知的障害者施設で入所者19人が殺されました。

犯行の動機は「『重度障害者は周囲を不幸にする不要な存在』と考えるようになり、殺害すれば自分の考えに賛同が得られ、先駆者になれると考えた」。そんな考えで凶行に及んだ男を到底、許すことはできません。しかし、私はこの事件を考える時、被告だけでなく社会の根底にある問題にも目を向けるべきだと思っています。

かつては「不幸な子どもの生まれない運動」が公然と行われていました。兵庫県は1960年代、障害児を「不幸な子」として扱い、出生前診断などを推奨。差別思想に基づく運動は、他の自治体にも広がりました。

第二次世界大戦中のドイツは、ユダヤ人を大量殺害しました。2019年に訪ねたポーランドのアウシュビッツ強制収容所で聞かされたのは、ユダヤ人の前に障害者を虐殺した事実です。ガス室だった場所に立った私は、こみ上げる怒りや悔しさに震えました。

しかし、残念なことに障害者を人として見ない社会は、いまだに続いています。障害が

ある子どもを産まない選択をする社会ではなく、障害があっても安心して子どもを育てられる社会であってほしいと強く願っています。

たとえ寝たきりでも、言葉が出なくても、人は人として等しい。基本的人権をうたう憲法十一条を、私は「価値の無い人間はいない。存在そのものが尊敬すべきものである」と自分なりに言い換え、その重みをかみしめています。

人はそれぞれに違う個性を持っていますが、命はみんな平等。自分の命も、他人の命も大切にしてほしいのです。

ＢＣＰ福祉事業所の事業継続計画

事務局長　やはた　たかし

昨年は福祉事業所の報酬改定に伴い、事業継続計画（BCP）策定が義務付けられました。3年の猶予があるので、2024年3月末までが策定期限となってなっています。

今回はこの福祉事業所のBCP策定について解説します。

わかりにくい厚労省ひな型

事業継続計画といっても何に対する備えなのかはいくつも種類があります。よくあるのは地震や風水害などの自然災害に対する備えですが、最近では新型コロナに対するBCPもよく作られています。２種類のＢＣＰ策定のための「ひな型」とその研修のための動画が厚生労働省のホームページにのっています。

自然災害のためのBCPを例に挙げると書き込むページが26ページもあり、これ必要かなあと疑うページがいくつもあります。これを記入する上での解説書も準備されています。その中にBCP策定のフローチャートが書かれているのですが、これについても項目

が多く対応が困難だと思われます。

事前対策と毎年の研修が肝心

私たちは 2014年から「BCP研究会」を立ち上げ、毎月勉強会をしています。その中で話したのは、BCPはできるだけ簡略なものが良いということと、どれだけ災害が起こる前に準備しているかが大事だということです。

実際に災害が起こってしまえば、災害の種類、規模などに応じて臨機応変に対応することが求められ、マニュアルにないことが色々と起こってきます。マニュアルには最低限のことが書いてあればいいと思っています。

最近自治体の中には避難所開設キットを準備しているところもあり、誰もがそれを見て避難所を開設できるように手順が書いてあるファイルを1つの箱の中に置いています。BCPについてもこのようなキットを作ればよいのではと考えています。

解説動画を作りました

昨年11月に大阪府茨木市で各事業所がBCPを作るので、厚生労働省のひな型の解説をしてほしいという依頼がありました。その講演がかなり好評だったこともあって、多くの事業所がBCP策定義務付けで苦しんでいることを実感しました。

ゆめ風基金としてBCP策定をもっと実用的に広めていきたいと感じ、ひな型の解説動画を作ることにしました。福祉事業所の方や興味のある方はご覧ください。（ゆめ風基金のホームページから「障害者防災」をクリックすると見れます）

写真　名古屋市の避難所開設キット

応援団からこんにちは！Vol.1

今回から「ゆめ風応援団」のみなさんに自己紹介をかねた原稿を書いていただくことになりました！

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

日々の活動が防災力につながると信じて

自立生活センター　自立のたましい～略して じりたま！～

おの　かずよし

みなさんこんにちは！

自立生活センター　自立のたましい　略して じりたま！　のおの　かずよしと申します。私は、神奈川県横浜市で生活をしております。日常生活では車いすを使用しています。

じりたまでは障害当事者スタッフが中心となり、各自の経験をいかして障害者の自立生活をサポートしています。

出身地である福島県いわき市在住時に経験した東日本大震災には、あらためて気づかされたことが多くありました。「災害に備えるためには、日頃からの地域との繋がりが大切です」。この言葉を災害が起きるたびに耳にし、私自身も何度も伝えてきました。ですが、「自立生活センターというのは、障害者と地域とのつながりをつくるために活動しているのではないだろうか。」、「緊急時にこそ平常時の活動の結果が何かのかたちにな

って出てほしい」と、考えるようになりました。その為には、障害者の困りごとを発信するだけではなく様々な立場のひとたちと話し合い、考える時間が大切だと思い、じりたまでは「障害者エンパワメントプロジェクト2020」を立ち上げ、福島県の自立生活センターの皆さんと活動をしています。詳しくは「じりたまホームページ」をご覧ください。

平常時に障害の有無を問わず分け隔てなく関われる環境をつくることが防災力につながると信じて楽しみながら活動をしています！

創業者の想い

ＮＰＯ法人自立支援センターぽぽろ　理事長　たにぐち　りょういち

当法人創業者は私の女房ですが、6年前に他界し急遽「福祉ど素人」の私がこの事業を引継がねばならなくなりました。法人は 17年目になりますが創業前の平成14年10月に札幌市で「第 6 回DPI世界会議」が開催され女房は福祉の道にのめり込んでしまったようです。それまでは土建業をおこしていたのですが、バリアフリーの言語が世に出てきて障害者の心地よい住まいとは何かを求めて障害当事者の方々に直接聞くことから始まり、身も心もそちらに傾いて自分で福祉事業所を立ち上げ、とくに重度心身障害者の方々が地域に根ざすこととは自立生活を進めることだとして今日のぽぽろがあります。

私はど素人だけにDPI北海道の皆さんとの勉強会でメンバーの方々に「共存の基礎」を学んできました。そんな矢先に平成30年9月6日未明の「北海道いぶりとうぶじしん（震度6弱）」で共同住宅、就労、児童、本部事務所の建物が被災し、改修不能で取り壊すという選択しかありませんでした。職員・利用者さんの惜しみない協力で日々の療育、支援を止めることなく、とにかく場所探しに奔走し3カ月ほどかかりましたが、何とか

年越しまでには間に合い新住居、テナント等の確保ができました。

問題は資金繰りがすっかり後回しで頭を悩ましていましたが、DPI北海道のメンバーさんたちから「ゆめ風基金」があるから聞いてみな！って言われ問い合わせすると当時の事務局長さんからすぐ申請してください、とのこと。素早い対応と決定に本当に有難く思いました。創業者の想いが他界後もDPI会議との橋渡しと共に繋がっていることに感謝し今後も大事にしていこうといつも思っています。

98 号　カンパを頂いた団体　2021/9-2021/12

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。

本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたらどうかお許しください。

9/3　三角ベース（くにさきし）

9/9　せんりじ(吹田市)

9/16 坂町心身障害児者ゆずりはの会(安芸郡)

9/17 吉田町手をつなぐ育成会（宇和島市）

9/17、10/19、11/19、12/6　健康アメニティたのし（新宿区）

9/22　プ・リズム（足立区）

9/28,12/14　とくゆうじ（南松浦郡）

9/24　CIL 松山、い一はと一ぶ（さいたま市）

9/30　いるか設計集団（神戸市）

10/4、10/15　だて地域生活支援センター　わかば会（伊達市）

10/6　ゆりのき（横浜市）

10/7　フジテクノ（川越市）、パルすみのえ（住之江区）、

10/15　ちくほう共学舎虫の家（鞍手郡）、みんなのかえるランド（小郡市）

10/21　コーヒータイム（二本松）、みょうげんじ（名古屋市）、

11/3　和太鼓れんうてな（東京都）

11/12　柴山治療院（福井県）

11/26　自立生活センター松山（愛媛県）

12/13　京都聖マリア教会婦人部(右京区)

12/14　でんでん虫の会（加東市）

12/16　ベルーカテナ（越谷市）、かしのみ幼稚園（武蔵野市）、ミニヨンペットショップ（川西市）

12/17　フレッシュ・シンガーズ（松戸市）

12/20　太刀洗町障がい児者親の会ぽけっと（福岡県）、大阪聖ヨハネ教会（中央区）、なかのきみよし法律事務所（大野城市）、

12/21　ヌヴェールあいとく修道会(伏見区)

12/22　清心中学校・清心女子高等学校（倉敷市）

12/23　日本聖公会大阪教区婦人会（阿倍野区）

12/24　豊中友の会（大阪府）、キム診療所（東成区）

12/27　ネットきくがわ(静岡県)

12/28　聖愛園（東淀川区）

12/30　さんぜんかい（大阪市）

事務局の動き

2021 年 9 月から 12 月の動きを一部ご紹介します。

9/6、10/5、11/2　防災検討会議

9/15　京都三条ラジオカフェ出演

9/17、9/30、10/15、11/19　ポジティブ交流祭実行委員会

9/18　CIL富山講演(WEB)

9/20　　御殿場自立支援協議会ビデオ講演

22, 24　96 号発送作業、

22 日　BCP（事業継続計画）会議

10/15　ポジ祭事前会議

10/18　むくのき学園出前授業

10/23　近畿ろうきん「サポート V」10 年イベント

10/27　西淡路小学校出前授業

11/2　障害者防災会議、摂津市教育委員会講演

11/6　震災体験講演

11/10、12　柴島中学校　中学生プロジェクト、

11/10　97 号編集会議、

11/12 日　OSN（大阪災害ネットワーク）三者連携会議

11/15　OSN 会議(WEB)

11/16　大分県社会福祉協議会講演(WEB)

11/17　茨木市立東雲中学校講演

11/20　茨木市長寿介護課講演

11/22　イタリアに学ぶ防災

11/23　ポジ祭(WEB)

11/29　阿倍野区自立支援協議会講演

12/8,9　97 号発送作業

12/2, 3　摂津二中・中学生プロジェクト

12/15　理事会

12/17　AAR（難民を助ける会）講演(WEB)

12/21　西区社会福祉協議会講演(WEB)

12/24　田辺三菱製薬労働組合様来所

会計報告　　別紙

そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2021.9-12

◆　コロナ禍で施設面談がストップしてしまいました。こんな日が早く終わりますように（北見市）

◆　誰もが、生きていかれる社会を！細く長く、ゆめ風基金とつながっていきたいと思います（金沢市）

◆　寄付できていなかった期間も広報の送付を続けて下さり有り難うございます。久しぶりにお送りします（八尾市）

◆ 政府は人命より金の方が大事らしい（武蔵野市）

◆ まだまだ支援させていただきます（那須郡）

◆ 各地からの善意の風だよりに救われる思いです（岩国市）

◆ コロナに災害、気がめいることばかりですが、臨時収入がありましたので送ります（諫早市）

◆ 81歳になりましたので、今回を最後に…。皆様の活動のご発展を祈っています（鳥栖市）

◆ いつも通信に励まされています。ありがとうございます（牧方市）

◆ ゆめ風だよりありがとうございます。「苦しい時こそ視野を広く」心に染み入りました（島本町）

◆ ガラパゴスさんの「無事に日常を過ごしたい」という記事の後に、又被災されたことを読み、心が痛みます。少額ですが支援になればと思います（宝塚市）

◆ 見て見ぬふりは出来ないので僅かですがお送りしました。領収書不要です（川崎市）

◆ 96号の内田理事の話に心をゆさぶられました。「ノー」と言うと仲間とつながることしなやかに生きる言葉にパワーをいただきました（奈良市）

◆ 今年も残り少なくなりました。新しいコロナが見つかりましたがどうぞ皆様はお元気でお過ごし下さい（三鷹市）

◆ 平穏な生活が長く続きます様に。少しですが誕生日の記念として（太田市）

◆ 地域社会の繋がりの大切さ、実感します。顔見知りになること、助けてくれる人がいると思える事等安心できる関係づくり、大切ですね（高市郡）

◆ 特に女性障害者のためにお使いください（京都市）

◆ 災害が多く、その上コロナ。どうか希望を失わずに。応援しています（横須賀市）

◆ 困りごとが表に出る事が大事ですね。冊子いただく度に、知らずにすませてしまうこ

わさを思います。たいしたことできずとも、まず思うこと、考える事（甲賀市）

◆ コロナがおさまらない今困っている方は増えるばかり。口先だけの政治より実行を願うばかりです（横浜市

◆ 全ての人が平和な2022年であります様に（長岡京市）

◆ 一人暮らしの高齢者です、今年もささやかな気持ちを送れました（松戸市）

編集後記

昨年クレジットカードによる寄付を開始し、多くの方からご寄付をいただき感謝しております。そこで要望の高かった毎月、あるいは毎年の寄付についても対応することが可能になりました。ゆめ風基金に寄せられた 寄 付については確定申告ではなく還付申告ですので、5年間にさかのぼり控除が受けられ、いつでも申告が可能です。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。（事務局）

ゆめ風ネットワーク連絡先　FAX は 06-6321-5662 まで

さっぽろ 011-817-9080 秋田 018-846-3916 みやぎ 0220-44-4171 いわき 0246-68-8925 新潟　0252-32-7522　三条　0256-34-2448　JDS（東京）03-6907-1824　東大和　042-567-2622 立川 042-525-0879 横浜港北 045-431-4070 千葉 047-485-1245 埼玉 048-738-4593 上田 0268-39-4568 静岡 054-288-6068 きくがわ 0537-35-8303 本庄 0495-24-8902　愛知 052-841-9888 名古屋 052-745-1001 岐阜 058-388-1864 加賀 076-243-6786 富山 076-444-3753 福井 0776-52-6464 三重 059-202-5782 滋賀 077-543-2844 京都 0774-93-3277　JCIL（京都）075-671-8484　奈良　0745-42-2919　和歌山　0737-82-4060

伊丹 072-783-4991 ひょうご 078-642-0142 はりま 0792-84-4668 淡路島 0799-70-6145 明石 078-913-5315 しまね 0854-83-2183 かがわ 0877-73-4177 愛媛 089-924-8533 まつやま 089-986-3245 今治 0898-54-4365 徳島 088-602-1003 岡山 0866-97-0206 ひろしま 082-294-4185 尾道 0848-38-9551 やまぐち 0833-76-0550 福岡 094-962-6003 宇佐 0978-32-3365 ながさき 0957-46-3858 諫早 0957-28-3800 さが 0952-74-4568 熊本 096-366-3329 みやざき 0985-31-4800 かごしま 0994-63-8855 沖縄 098-958-2912